

現代日本論基礎講読「研究法入門」

第3講 本を読む (2): 批判と議論

田中重人 (東北大学文学部准教授)

[テーマ] 本の概要をつかみ、その内容について議論する

1 課題

各自で探してきた本について、次のことを議論する

- 主要なキーワードとその意味
- 章や節がどのような組み立てになっているか
- 自分にとって参考になること（あるいは面白い発見）はどれか。その根拠となるのは何か

2 書誌情報の書きかた

文献の情報 (書誌情報: bibliography) をどう書くかについては、分野ごとに慣習が違う。日本語教育学研究室では、本の書誌情報はつぎのように書く。

著者 (出版年) 『書名』 出版社.

シリーズ名や版表示などをつける必要がある場合は、書名の閉じかっこ』のあとに () でくくって示す。

3 キーワードを抜き出す

教科書 p. 86

- その本のなかで重要そうな単語や句
- 意味と用例
- 専門用語か; どの分野で使うことばか
- 類似語との異同
- ほかのキーワードとの関連

章ごとに3つ以上抜き出してみる

4 段落

学術的な文章では、段落 (paragraph) が基本的な構成要素となる

- 通常、ひとつの段落にひとつの主題 →キーセンテンスを見つける (最初にあることが多い)
- 段落をいくつか組み立ててひとつのセクションができる →セクション内で最重要の段落はどれか?
- 段落がうまく構成されているとは限らないので注意

5 読書から読みとること

- その本の主張したいこと
- 自分の研究にとって役に立つこと

研究が進むにしたがって、後者の比重が大きくなる。

6 次回の予定

次回は、今日とおなじ本について、一部に注目しての「精読」をおこないます。次のものを用意してください。その本の実物も持ってくること。

- 本の中から、自分が注目したい部分 4-9 段落程度をえらぶ
- A3用紙の中央にうまく配置してコピーする。必要があれば図や表なども一緒に。上下左右に大きく余白をとること